

2019 年度富士河口湖町観光統計の企画・監修

研究員 栗原 剛（国際観光学部国際観光学科 准教授）

1. 受託研究の経緯

本研究は、2015 年度に「観光基礎統計の確立に関する調査研究」として富士河口湖町より受託したことをきっかけに始まり、2018 年度から表題にある「観光統計の企画・監修」として実施している。企画・監修の内容は、1)観光統計年報の作成、2)観光トピックスの作成、3)観光実態調査の実施の三つであり、年に一度開催される観光統計確立委員会（委員長：佐々木邦明早稲田大学教授）において有識者のレビューを受けている。

富士河口湖町は、世界から高い評価を受けている富士五湖地域に位置しており、多くの外国人旅行者を受け入れている観光地である。それにもかかわらず、町では宿泊者数や旅行消費額等の観光のインパクトを検証するデータが整備されておらず、客観的に政策効果の検証や施策立案をおこなうことができなかった。その問題意識のもと、本受託研究は町独自の観光統計整備を目的として設立された。限られた観光予算の中で上記の企画・監修を遂行するために、富士河口湖町は大学との協働を模索したことが特徴である。

2. 観光実態調査

富士河口湖町では、町内の観光動向等を把握することを目的として、観光実態調査を年に二回、7 月（夏季）と 11 月（秋季）に実施している。年代や同行者、旅行目的、町内の立ち寄り箇所等の旅行者属性、旅行行動特性を把握する設問を共通とし、満足度等を把握するニーズ調査と、消費額等を把握する消費調査にわけて隔年でおこなっている。2019 年度はニーズ調査を実施した。秋季調査の概要を表 1 に示す。

表 1 秋季調査の概要

調査日時	2019年11月23日（土）13:00～15:30, 2019年11月24日（日）9:30～12:00
調査項目	性別, 年代, 居住地, 同行者, 同行者数, 旅行目的, 来町回数, 前回の来訪時期, 滞在期間, 交通手段, 立ち寄り地点, 町のイメージ, 来訪後のイメージ, 満足度, 再訪意向, 入手した観光情報媒体, 欲しいと思う観光情報, 自由回答
調査員	18名（東洋大学国際観光学部他）
調査地点	世界遺産センター, 河口湖駅, ハーブ館, オルゴールの森, 大石公園, 道の駅かつやま, いやしの里根場, 富岳風穴, 本栖湖畔
回収数	日本人76票, 外国人82票



図 1 調査の様子



図 2 秋季調査の調査員

調査は新しく配属された 2 年生のゼミ生を中心に 18 名でおこなった（図 1）。観光調査の特徴として、母集団が特定できないことにより、厳密には統計的な検定に耐えられない問題を抱えているが、本調査では、できるだけ調査のバイアスを少なくすることで、時点間比較による観光動向の把握ができるよう設計を工夫している。具体的には、調査員は毎回異なるため、調査員によるサンプルの偏りが生じないように、調査マニュアルを作成し、事前の研修を必ずおこなっている。調査員は東洋大学の腕章と身分証（学生証）を携帯し、日本語と英語、中国語（簡体字）の三つの言語の調査票を用意し、旅行者に回答してもらう形でおこなっている（図 2）。

3. 観光トピックスの公表

町内の観光施設や宿泊施設、観光案内所から収集した入り込み客数等のデータを集計し、最新の観光トピックスとして 6 月と 12 月の年二回を目途に発行している。全国や山梨県と比較しつつ、同時期に町内の観光動向として特徴的な事項をポイントとして整理し、冒頭にまとめている¹⁾。観光実態調査のデータも徐々に蓄積してきたので、今後はそのデータ分析の内容もトピックスの中で公表したいと考えている。

4. 今後の展望

観光実態調査は継続して実施しているものの、必ずしも町の観光政策立案と評価に活かされていない。今後は、調査のための調査ではなく、観光政策に貢献する調査の姿を模索したい。

参考文献

- 1) 富士河口湖町観光統計、「富士河口湖町観光トピックス（2018 年 10 月～2019 年 3 月号）」、
<https://www.town.fujikawaguchiko.lg.jp/upload/file/kanko/topics201906.pdf>（2020 年 2 月 13 日閲覧）。